

# 定期作況報告

(第4号 平成28年8月20日現在)

地方独立行政法人北海道立総合研究機構  
農業研究本部 上川農業試験場

## 1. 気象概況

7月下旬：平年に比べ、平均気温は0.9℃高く、降水量は41.3mm多く、日照時間は4.1時間多かった。

真夏日（最高気温30℃以上）は1日、夏日（最高気温25℃以上30℃未満）は8日であった。

8月上旬：平年に比べ、平均気温は0.4℃高く、降水量は25.6mm少なく、日照時間は21.6時間多かった。真夏日は4日、夏日は6日であった。

8月中旬：平年に比べ、平均気温は0.9℃高く、降水量は128.2mm多く、日照時間は16.6時間多かった。真夏日は2日、夏日は6日であった。

7月下旬から8月中旬までの気象は表1のとおりである。

表1 気象

調査項目	7月下旬			8月上旬			8月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
平均気温(℃)	22.5	21.6	0.9	23.0	22.6	0.4	22.7	21.8	0.9	22.7	22.0	0.7
最高気温(℃)	27.7	27.4	0.3	29.4	28.2	1.2	27.7	27.1	0.6	28.3	27.6	0.7
最低気温(℃)	18.4	17.0	1.4	17.8	18.0	▲ 0.2	18.4	17.5	0.9	18.2	17.5	0.7
降水量(mm)	104.5	63.2	41.3	25.5	51.1	▲ 25.6	210.5	82.3	128.2	340.5	196.6	143.9
降水日数(日)	4.0	4.7	▲ 0.7	3.0	3.3	▲ 0.3	4.0	5.5	▲ 1.5	11.0	13.5	▲ 2.5
日照時間(hr)	62.3	58.2	4.1	77.7	56.1	21.6	61.1	44.5	16.6	201	159	42.3

注1) 比布アメダス観測値。

2) 平年は比布アメダス前10カ年の平均値。

3) ▲印は平年に比べて減を示す。

1) 水 稲：平年並

5月20日現在：平年並

播種は平年より1日遅い4月15日に行った。育苗期間の天候は4月中旬が寡照に経過し、出芽は平年よりやや遅れ、出芽揃いもやや劣った。4月下旬の日照時間は平年よりやや多かったが、気温は平年より低く、苗の生育は遅延した。5月以降、気温は平年より高く、日照時間は平年並から上回り、苗の生育は回復傾向となった。移植は平年より1日遅い5月20日に行った。移植時の草丈は平年より1.9～2.6cm低く、第1葉鞘高は平年並であった。主稈葉数と茎数はほぼ平年並であった。地上部乾物重は平年より0.83～0.87g軽かった。苗の形質はいずれも、機械移植栽培基準の範囲にあり、苗の充実度を現す地上部乾物重／草丈は平年並であった。

これらのことから、目下の作況は「平年並」である。

6月20日現在：やや不良

5月下旬の高温・多照により活着は良好で生育も順調であったが、6月上・中旬の低温・日照不足により生育は停滞した。6月20日現在、平年に比べ主稈葉数は0.6～0.7枚少なく、草丈も1.7～5.2cm低く、㎡当たり茎数は25～28%少ない。これらのことから、目下の作況は「やや不良」である。

7月20日現在：やや不良

6月下旬から7月上旬の低温により生育は遅れ、幼穂形成期は平年より4～6日遅く、止葉期は平年より7日遅くなった。7月中旬の天候は平年並になり生育は回復傾向にある。7月20日の止葉葉数は平年並で茎数は平年よりやや多いものの、草丈は4.3～7.5cm低い。これらのことから目下の作況は「やや不良」である。

8月20日現在：平年並

7月下旬から8月中旬の高温・多照により生育は回復傾向にあり、出穂期は平年より4～5日遅れまで回復した。穂揃い日数は平年並で、登熟は順調に進んでいる。成熟期の稈長は平年よりやや長く、穂長は平年並からやや短い。㎡当たり穂数は平年より24～69本多い。これらのことから目下の作況は「平年並」である。

表2 8月20日の水稻の生育

項目	品種名 ／年次	ななつぼし			きらら397			ゆめぴりか			
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
生育期節	播種期 (月日)	4.15	4.14	1	4.15	4.14	1	4.15	4.14	1	
	移植期 (月日)	5.20	5.19	1	5.20	5.19	1	5.20	5.19	1	
	幼穂形成期 (月日)	6.27	6.23	4	7.02	6.26	6	6.28	6.23	5	
	止葉期 (月日)	7.16	7.09	7	7.18	7.11	7	7.16	7.09	7	
	出穂期 (月日)	7.25	7.21	4	7.26	7.22	4	7.25	7.20	5	
	成熟期 (月日)		9.08			9.10			9.06		
	穂揃日数 (日)	8	8	0	8	7	1	9	8	1	
	登熟日数 (日)		49			50			48		
	生育日数 (日)		147			1		145			
移植時	草丈 (cm)	11.1	13.7	▲ 2.6	11.2	13.1	▲ 1.9	11.4	13.6	▲ 2.2	
	葉数 (枚)	4.0	4.0	0.0	4.1	4.1	0.0	4.0	4.2	▲ 0.2	
	茎数 (本)	1.9	1.7	0.2	2.0	1.8	0.2	2.0	2.0	0.0	
	第1葉鞘高 (cm)	2.4	2.5	▲ 0.1	2.5	2.6	▲ 0.1	2.4	2.5	▲ 0.1	
	地上部乾物重 (g/100本)	3.58	4.41	▲ 0.83	3.40	4.23	▲ 0.83	3.60	4.47	▲ 0.87	
	地上部乾物重/草丈	0.32	0.32	0.00	0.30	0.32	▲ 0.02	0.32	0.33	▲ 0.01	
本田生育	葉数 (枚)	6月20日	7.6	8.2	▲ 0.6	7.9	8.6	▲ 0.7	7.9	8.6	▲ 0.7
		7月20日	10.2	10.2	0.0	11.0	11.0	0.0	10.6	10.6	0.0
		止葉葉数	10.2	10.2	0.0	11.0	11.0	0.0	10.6	10.6	0.0
	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	6月20日	453	608	▲ 155	520	727	▲ 207	505	680	▲ 175
		7月20日	746	731	15	867	797	70	889	816	73
	草丈 (cm)	6月20日	34.5	39.7	▲ 5.2	32.3	34.0	▲ 1.7	34.2	37.8	▲ 3.6
7月20日		74.4	81.9	▲ 7.5	69.4	73.7	▲ 4.3	74.4	80.5	▲ 6.1	
成熟期	稈長 (cm)	69.9	67.9	2.0	65.9	62.7	3.2	67.3	65.1	2.2	
	穂長 (cm)	16.2	16.7	▲ 0.5	16.6	16.5	0.1	16.4	16.8	▲ 0.4	
	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	696	672	24	758	727	31	824	755	69	
収量構成要素	一穂粒数 (粒)		49.1			42.2			42.6		
	m <sup>2</sup> 当たり粒数 (×千)		33.0			30.5			32.0		
	稔実歩合 (%)		96.1			95.6			95.1		
	m <sup>2</sup> 当たり稔実粒数 (×千)		31.7			29.2			30.4		
	同上比 (%)		100			100			100		
	登熟歩合 (%)		90.8			87.1			87.1		
	籾摺歩合 (%)		81.9			80.9			79.7		
	屑米歩合 (%)		1.7			2.1			2.7		
	精玄米千粒重 (g)		22.4			23.3			22.8		
収量	藁重 (kg/10a)		629			582			604		
	精粒重 (kg/10a)		810			792			796		
	精玄米重 (kg/10a)		663			640			634		
	収量平年比 (%)		100			100			100		
	検査等級 (等)		1下	-		1下	-		1下	-	

注 1) 平年値は前7カ年の中、平成21年(最凶年)、平成26年(最豊年)を除く5カ年の平均値。

2) △は平年に比べ「早」、▲は平年に比べ「減」を示す。

3) 苗代耕種概要 育苗様式：成苗ポット苗

施肥量：成分量でm<sup>2</sup>あたり、床土 N 3.0g, P<sub>2</sub>O<sub>5</sub> 7.2g, K<sub>2</sub>O 3.0g、

置床 N 27.0g, P<sub>2</sub>O<sub>5</sub> 34.0g, K<sub>2</sub>O 18.0g

4) 本田耕種概要 栽植密度：25.3株/m<sup>2</sup> (33.0cm×12.0cm)、3本植

施肥量：成分量で10aあたり、N 8.0kg, P<sub>2</sub>O<sub>5</sub> 9.7kg, K<sub>2</sub>O 6.9kg, 堆肥1,000kg

5) 精玄米千粒重・精玄米重：網目1.90mm以上、水分15%換算

2) 秋まき小麦：良

9月20日現在：

事由：平年より5日早い9月10日に播種し、平年より5日早い9月19日に出芽期となった。

10月20日現在：やや良

事由：出芽期が平年より5日早く、9月下旬の気温が高かったことから、生育は平年より進んでいる。葉数、草丈および茎数はいずれも平年を上回り、特に茎数は平年の約2倍となっている。したがって、目下の作況は「やや良」である。

5月20日現在：やや良

事由：根雪始は平年より5日早く、根雪終は平年より7日早く、積雪期間は平年より3日短い137日となった。雪腐病発病度は平年より低く、越冬茎歩合は平年よりやや高く、現時点の茎数は平年より多い。根雪終が平年より早く、融雪後の気温が4月下旬を除いて平年より高く推移したため、生育は進んでおり、草丈は平年より高い。

したがって、目下の作況は「やや良」である。

6月20日現在：やや良

事由：5月下旬の気温が高温に推移したため、前節に引き続き生育は進んでおり、出穂期は平年より5日早となった。その後、6月上中旬の低温寡照により生育は停滞傾向であるが、現時点の草丈は平年よりやや高く、茎数は平年を上回っている。

したがって、目下の作況は「やや良」である。

7月20日現在：やや良

事由：出穂以降、低温傾向で経過したことから、登熟はゆるやかに進んでおり、現時点で成熟期には未達である。稈長は平年並で、穂長は平年をやや下回っているが、穂数は平年を上回っている。

したがって、目下の作況は「やや良」である。

8月20日現在：良

事由：成熟期は平年より4日遅い7月22日となった。出穂期は平年より5日早く、登熟期間は平年より9日長かった。穂数が平年より多く、子実重は平年比117%と多収であった。子実の充実も良好で、千粒重は平年を上回り、リットル重は平年をやや上回った。

したがって、目下の作況は「良」である。

表3 8月20日の秋まき小麦の生育

品 種 名		きたほなみ		
項 目 \ 年次		本 年	平 年	比 較
播種期 (月.日)		9.10	9.15	△ 5
出芽期 (月.日)		9.19	9.24	△ 5
出穂期 (月.日)		6.01	6.06	△ 5
成熟期 (月.日)		7.22	7.18	4
越冬茎歩合 (%)		132.3	128.2	4.1
雪腐病発病度		3.1	12.1	▲ 9.0
葉数(枚)	平27年10月20日	5.1	4.4	0.7
草丈 (cm)	平27年10月20日	19.6	18.5	1.1
	平28年 5月20日	42.9	38.4	4.5
	平28年 6月20日	88.3	86.5	1.8
茎数 (本/m <sup>2</sup> )	平27年10月20日	1473	723	750
	平28年 5月20日	1599	1366	233
	平28年 6月20日	764	685	79
成熟期	稈長 (cm)	78	78	0
	穂長 (cm)	7.9	8.6	▲ 0.7
	穂数(本/m <sup>2</sup> )	721	633	88
子実重 (kg/10a)		754	646	108
同上平年比 (%)		117	100	17
リットル重 (g)		813	804	9
千粒重 (g)		42.9	39.2	3.7
検査等級 (等)			2中	-

注 1) 平年値は、前7か年中、平成22年、27年（収穫年度）を除く5か年の平均値。

2) △は平年より早を、▲は平年より減を示す。

3) リットル重は1リットル升による測定。

3) 春まき小麦：良

5月20日現在：平年並

事由：融雪は平年より7日早かったが、その後の天候不順により播種期は平年より3日遅い4月22日であった。その後、出芽期は平年より1日遅れに留まり、草丈、茎数とも平年をやや下回る程度であった。

したがって、目下の作況は「平年並」である。

6月20日現在：やや不良

事由：6月上旬に降水量が極めて少なく土壌が乾燥状態で推移したことから茎長・茎数とも平年を下回っている。また、6月上中旬が低温で推移したことから生育が遅れ、出穂期に達していない。

したがって、目下の作況は「やや不良」である。

7月20日現在：平年並

事由：出穂期は平年より4日遅かった。その後気温は平年並から低く推移したが、適度な降雨と日照時間が確保されたことから生育は持ち直し、稈長は平年並であった。穂長はやや短い、有効茎歩合が高く穂数は平年並であった。

したがって、目下の作況は「平年並」である。

8月20日現在：良

事由：成熟期は平年より5日遅かった。登熟期間中の気温が平年並からやや低く推移し、穂数および登熟期間が確保されたことから、子実重は平年比121%と多収であった。

したがって、目下の作況は「良」である。

表4 8月20日の春まき小麦の生育

品 種 名		春よ恋		
項 目	年次	本 年	平 年	比 較
播種期	(月.日)	4.22	4.19	3
出芽期	(月.日)	5.05	5.04	1
出穂期	(月.日)	6.21	6.17	4
成熟期	(月.日)	8.02	7.28	5
草丈 (cm)	5月20日	16.7	20.5	▲ 3.8
	6月20日	68.2	81.7	▲ 13.5
茎数 (本/m <sup>2</sup> )	5月20日	496	684	▲ 188
	6月20日	638	758	▲ 120
成 熟 期	稈長 (cm)	95	91	4
	穂長 (cm)	8.1	8.7	▲ 0.6
	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	554	512	42
子実重	(kg/10a)	587	484	103
同上	平年比 (%)	121	100	21
リットル重	(g)		788	
千粒重	(g)		40.2	
検査等級	(等)		2中	-

注 1) 平年値は、前7か年中、平成22年、24年を除く5か年の平均値。

2) ▲は平年より減を示す。

3) リットル重は1リットル升による測定。

4) 大豆：平年並

6月20日現在：やや不良

5月中下旬が高温少雨に経過し、土壌が乾燥傾向であったこと、6月上旬の気温が低かったことから、出芽の進みは緩慢であり、出芽期は平年より6日遅となった。主茎長ならびに主茎節数が平年を下回ることから、目下の作況は「やや不良」である。

7月20日現在：やや不良

事由：6月下旬と7月上旬が低温で推移したため、依然として生育は遅れており、開花期は平年より6日遅となった。主茎長、主茎節数ならびに分枝数は平年を下回っている。

したがって、目下の作況は「やや不良」である。

8月20日現在：平年並

事由：7月下旬の強い降雨によりほぼ全面が倒伏した。主茎長は平年より10.7cm短く、主茎節数および分枝数は平年を下回っている。生育量が少なく、倒伏による莢の充実不良等が懸念されるが、着莢数は平年を上回っている。

したがって、目下の作況は「平年並」である。

表5 8月20日の大豆の生育

品 種 名		ユキホマレ		
項 目	年次	本 年	平 年	比 較
播種期	(月.日)	5.18	5.21	△ 3
出芽期	(月.日)	6.09	6.03	6
開花期	(月.日)	7.18	7.12	6
成熟期	(月.日)		9.22	
主茎長 (cm)	6月20日	8.6	11.9	▲ 3.3
	7月20日	53.8	63.5	▲ 9.7
	8月20日	61.1	71.8	▲ 10.7
	9月20日		72.2	
	成熟期		72.9	
主茎 節数 (節)	6月20日	3.3	4.2	▲ 0.9
	7月20日	9.8	10.5	▲ 0.7
	8月20日	10.1	10.7	▲ 0.6
	9月20日		10.9	
	成熟期		10.9	
分枝数 (本/株)	7月20日	6.3	7.1	▲ 0.8
	8月20日	7.2	7.5	▲ 0.3
	9月20日		6.1	
	成熟期		5.9	
着莢数 (個/株)	8月20日	105	91	14
	9月20日		77	
	成熟期		76	
子実重	(kg/10a)		426	
同上	平年比 (%)		100	
百粒重	(g)		36.5	
屑粒率	(%)		3.7	
検査等級	(等)		3上	-

注1) 平年値は、前7か年中、平成22年、26年を除く5か年の平均値。

2) △は平年より早を、▲は平年より減を示す。

5) 小豆：平年並

6月20日現在

事由：播種は平年より1日早い5月23日に行ったが、その後は降水量が少なく土壌が乾燥状態で推移したため、出芽期は平年より8日遅かった。出芽期の遅れの影響を受け、主茎長は平年より低く、本葉も展開していない状況であるが、6月中旬の降雨により土壌水分が十分であったことから出芽は揃ってきている。

したがって、目下の作況は「やや不良」である。

7月20日現在：不良

事由：6月下旬以降は適度な降雨もあり日照時間も確保されたが、出芽および初期生育の遅れの影響を大きく受け、主茎長、本葉数、分枝数とも平年を大きく下回っている。

したがって、目下の作況は「不良」である。

8月20日現在：平年並

事由：7月下旬以降は気温が平年並からやや高く推移し、7月下旬のまとまった降雨により土壌水分も十分であった。また日照時間も確保されたことから地上部生育はこれまでの遅れを取り戻し、倒伏が見られるものの主茎長は平年をやや上回り、本葉数、分枝数および着莢数は平年並である。

したがって、目下の作況は「平年並」である。

表6 8月20日の小豆の生育

品 種 名		エリモシヨウズ		
項 目 \ 年次		本 年	平 年	比 較
播種期 (月.日)		5.23	5.24	△ 1
出芽期 (月.日)		6.16	6.08	8
開花期 (月.日)		7.31	7.22	9
成熟期 (月.日)			9.4	
主茎長 (cm)	6月20日	1.9	4.8	▲ 2.9
	7月20日	18.8	34.8	▲ 16.0
	8月20日	73.8	65.6	8.2
	成熟期		67.0	
本葉数 (枚)	6月20日	0.0	1.5	▲ 1.5
	7月20日	6.1	9.7	▲ 3.6
	8月20日	12.7	13.0	▲ 0.3
主茎節数 (節)	成熟期		15.0	
分枝数 (本/株)	7月20日	3.8	6.0	▲ 2.2
	8月20日	5.8	5.6	0.2
	成熟期		5.1	
着莢数 (個/株)	8月20日	52	54	▲ 2
	成熟期		59	
子実重 (kg/10a)			325	
同上平年比 (%)			100	
百粒重 (g)			12.6	
屑粒率 (%)			3.4	
検査等級 (等)			3中	-

注 1) 平年値は、前7か年中、平成22、27年を除く5か年の平均値

2) △は平年より早を、▲は平年より減を示す。



6) ばれいしょ：平年並

6月20日現在：やや不良

事由：萌芽期は平年より1日遅れた程度だったが、その後6月上旬は降水量が極めて少なく土壌が乾燥し、また6月上中旬は低温で推移したため生育が遅れ、茎長は平年を下回っている。

したがって、目下の作況は「やや不良」である。

7月20日現在：平年並

事由：6月下旬以降は気温が平年並から低く推移したが、適度な降雨と日照時間が確保されたことから生育は順調に進み、茎長および上いも数は平年並であった。上いも平均一個重がやや軽かったが、上いも収量は平年比94%に留まった。

したがって、目下の作況は「平年並」である。

8月20日現在：平年並

事由：7月下旬以降は気温が平年並からやや高く推移し、7月下旬のまとまった降雨により土壌水分も十分に確保され、塊茎の肥大が順調に進んだため上いも収量は平年並であった。また、日照時間が確保されたことからでん粉の蓄積が良好で、でん粉価は平年を上回っている。

したがって、目下の作況は「平年並」である。

表7 8月20日のばれいしょの生育

品 種 名		男爵薯		
項 目	年次	本 年	平 年	比 較
植付期 (月.日)		5.10	5.08	2
萌芽期 (月.日)		5.29	5.28	1
開花始 (月.日)		6.26	6.23	3
枯凋期 (月.日)			8.30	
茎長 (cm)	6月20日	30.1	38.0	▲ 7.9
	7月20日	51.5	51.7	▲ 0.2
上いも数 (個/株)	7月20日	10.0	9.7	0.3
	8月20日	11.5	10.9	0.6
上いも平均一個重 (g)	7月20日	72	80	▲ 8
	8月20日	100	104	▲ 4
上いも収量 (kg/10a)	7月20日	3199	3406	▲ 207
	8月20日	5116	4957	159
でん粉価 (%)	7月20日	14.4	14.4	0.0
	8月20日	16.6	14.9	1.7
収 穫 期	上いも数 (個/株)		10.7	
	上いも平均一個重 (g)		103	
	上いも収量 (kg/10a)		4821	
	同上平年比 (%)		100	
	中以上いも収量 (kg/10a)		4326	
	同上平年比 (%)		100	
	規格内いも収量 (kg/10a)		4070	
	同上平年比 (%)		100	
でん粉価 (%)			14.6	

注 1) 平年値は、前7か年中、平成22、23年を除く5か年の平均値。

2) ▲は平年より減を示す。

3) 規格内収量は、生食用規格内 (M~2L : 60~260g) の収量である。